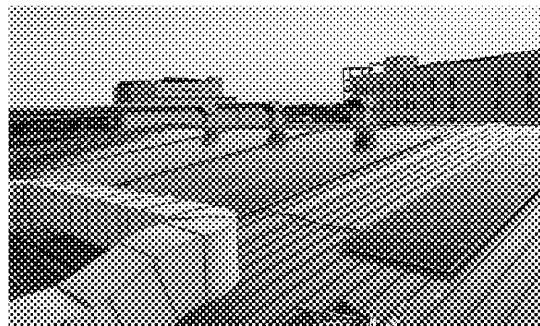


環境改善 従業員を表彰

アイコクアルファが制度

【名古屋】アイコクアルファ（愛知県稲沢市、樋田克史社長）は、環境改善に貢献した従業員個人の取り組みを社内ですら表彰する制度「カーボンニュートラル大賞」を開始した。再生可能エネルギーの導入や職場の改善活動など全社単位、事業部単位の活動と合わせて、個人の改善活動にも焦点を当てる。各従業員の環境への意識を高め、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）実現につなげる。

個人の業務のうち効（O₂）排出削減量に換算した際の成果などをアヤ、二酸化炭素（C）評価する。例えば担当する機械の加工効率を高め、電力使用量や切削油を減らすなどの取り組みを想定する。



4事業部からそれぞれ優秀な30年度までにCO₂排出量を13年度比46%削減する目標を掲げる（工場の屋根に設置した太陽光発電パネル）

事例を一つずつ選出。最終的に全社で1人を大賞に決定して年2回表彰する。8月に第1回の表彰を実施し、等速ジョイント部品の内輪の加工工程でエア使用量を削減した取り組みを選出した。大賞には賞金も授与する。アイコクアルファはこれまでグループ単位で行った職場の改善活動を表彰する「課題ラリー」の中で、環境改善への貢献度が高い取り組みについては

「環境賞」を設定し表彰していた。

今回、個人が対象となるカーボンニュートラル大賞を設けた狙いについて、樋田社長は「一人ひとりが自分事としてCO₂削減に取り組む意識を持ってほしい」と語る。

同社は変速機の部品などが主力。CO₂排出量を30年度までに13年度比46%削減することを目指している。これまで本社ビルや工場、営業所での太陽光発電、パネル設置やCO₂フリー電気の購入、生産性向上など省エネルギー活動を進めてきた。23年度時点で同約22%減まで実績を積み上げた。